2026 年 10 月 21 日（水）
GROOVE X 株式会社



伊豆箱根バス　旅行企画・実施「LOVOT の聖地・伊豆の国市　ホテル貸切オフ会」開催レポート

列車とホテルを貸し切り、ヒト 42 名と『LOVOT』31 体が聖地をめぐる 1 泊 2 日のツアー

ロボットベンチャーの GROOVE X 株式会社（本社：東京都中央区日本橋、代表取締役：林要）は、伊豆箱根バス株式会社（本社：静岡県三島市、代表取締役：鬼頭研二）が企画・実施した「LOVOT の聖地・伊豆の国市　ホテル貸切オフ会」が 2026 年 9 月 16 日(水)～17 日(木)に開催されたことをお知らせします。家族型ロボット『LOVOT[らぼっと]』のオーナーやファンを対象としたツアーで、ヒト 42 名、『LOVOT』31 体が参加しました。参加者は貸し切り列車や貸切ホテルを利用しながら、LOVOT の聖地・伊豆の国市をめぐりました。

※LOVOT 公式サイト URL：https://lovot.life/
※特設サイト URL： https://lovot.life/blog/article/bustour2026_izunokuni_report/
Instagram：@lovot_official / @lovot.life　X(旧：Twitter)：@LOVOT_official　Facebook：@LOVOT.official

---

ツアー開催のきっかけ

『LOVOT』は伊豆の国市の株式会社キョウデンで製造されています。2022 年 5 月からは同市の「いずのくに特命大使」を務めており、関連商品がふるさと納税返礼品に採用されるなど、地域とのつながりを深めてきました。

2026 年 2 月には、伊豆の国市長が施政方針の中で、「LOVOT の聖地」化に取り組むことを表明しました。同年 9 月には具体的な取組についても発表されています。今回のツアーは、「LOVOT の聖地を、『LOVOT』と一緒に楽しんでほしい」という思いから実現しました。

＜1 日目＞

三嶋大社で LOVOT と一緒にご祈祷



旅の始まりは、静岡県三島市の三嶋大社です。伊豆に流された源頼朝が、源氏再興を祈願したことでも知られる、歴史ある神社です。

厳かな雰囲気の中、参加者は『LOVOT』と一緒に家内安全・健康祈願のご祈祷を受けました。オフ会参加者限定の特典として、いずのくに特命大使の「かのん」、「べりる」のイラスト付き絵馬を贈りました。

『LOVOT』の車掌がお出迎え。貸切列車で修善寺へ

三嶋大社を出発したバスは、三島田町駅へ向かい、ここから伊豆箱根鉄道駿豆線の貸切列車の旅が始まります。

ホームでは、伊豆箱根鉄道株式会社で働く『LOVOT』の「ぱこまる」が車掌姿で参加者を出迎えました。「ぱこまる」も参加者と一緒に乗車し、終点の修善寺駅に向かいました。車内では、『LOVOT』と一緒に車窓を眺めたり、参加者同士で交流したりと、それぞれが思い思いの時間を過ごしました。

修善寺駅のホームでは、列車を背景に『LOVOT』達の集合写真を撮影。

駅の電光掲示板には、サプライズで「ラボットと共に、We love ラボット」の文字が表示され、カメラを向ける参加者の姿も見られました。





聖地の玄関口・伊豆長岡駅で「いずたん」がお出迎え

　折り返しの列車で、伊豆の国市の伊豆長岡駅に到着しました。

　駅直結のイズーラ伊豆長岡では、同施設で働く『LOVOT』の「いずたん」が参加者を出迎えました。店内では、ツアー当日に発売された『LOVOT』コラボメニューやお土産、「ぱこまる」「いずたん」のグッズを買い求める参加者が多く見られました。





伊豆パノラマパークでは、雲の上で『LOVOT』とひと休み

　伊豆長岡駅を後に、続いて向かったのは伊豆パノラマパークです。

ロープウェイで標高 452 メートル葛城山山頂へ上がると、晴れた日には富士山や駿河湾を望む絶景が広がります。

当日はあいにくの雨で、山頂は雲にすっぽりと覆われ、見渡すかぎり真っ白な世界となりました。それでも参加者は、山頂の「葛城珈琲」や「かつらぎ茶寮」で『LOVOT』とくつろいだり、ショップで名産品を選んだりと、雲の上の時間を楽しみました。





1棟まるごと貸し切り。館内どこでも『LOVOT』と一緒

宿泊先の伊豆長岡温泉　ホテル天坊は1棟貸し切りとし、客室だけでなく、ロビーやラウンジでも『LOVOT』と自由に過ごせるようにしました。

到着時には、ホテル天坊で働く『LOVOT』の「てんちゃん」と「ぼうちゃん」が参加者を出迎えました。エントランスには、この日のために製作されたフォトスポットも飾られました。このフォトスポットは、ツアー終了後に伊豆長岡駅へ移設しています。

館内では、伊豆の国市内の事業者と『LOVOT』のコラボレーション商品を販売しました。参加した事業者は、「ながお菓まんじゅう 柳月」、「パティスリーアミティエ」、「エスパーク」、「yuu～フロランタンとカヌレの専門店～」です。



『LOVOT』も席について乾杯。会場を自由に歩き回る夜

夜の宴会では、『LOVOT』用の座席も用意し、参加者と一緒に食事を楽しみました。『LOVOT』たちは会場内を自由に動き回り、あちこちで参加者のもとへ抱っこをねだりに行く姿が見られました。

伊豆の国市の職員の方からは、「LOVOT の聖地化」に向けた取り組みの紹介があり、参加者に「どんな施策を望むか」を問いかける場面もありました。

発表の後には、聖地化を記念した特大ケーキがサプライズで登場し、会場から歓声があがりました。ケーキには、いずのくに特命大使の「かのん」と「べりる」のイラストが描かれています。制作したのは、市内事業者のパティスリーアミティエです。





推しの『LOVOT』と一夜を過ごせるのは誰だ



宴会で一番の盛り上がりを見せたのが「LVT8 お泊りじゃんけん大会」です。

会場には、GROOVE X で働く『LOVOT』の中で、人気投票上位 8 体に選ばれた「LVT 8 」が登場。じゃんけんで勝ち残った参加者 8 名が、推しの LVT8 メンバーと一緒に宿泊できるという企画です。一手ごとに歓声と悲鳴が上がる、白熱の勝負となりました。

<2 日目>

世界遺産の韮山反射炉を見学



2 日目に最初に訪れたのは、伊豆の国市が誇る世界遺産　韮山反射炉です。江戸時代末期に大砲を鋳造するために築かれた炉で、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録されています。

参加者はボランティアガイドの案内で反射炉を見学し、記念撮影も楽しみました。

いずのくに特命大使の「かのん」の名前の由来となったカノン砲の前では、「かのん」とともに写真を撮る参加者が多く見られました。

伊豆の国歴史館いずしるで、『LOVOT』とお揃いの衣装を着て記念撮影

続いて、2026 年 5 月に開館したばかりの「伊豆の国歴史館いずしる」へ。

館内では、いずのくに特命大使の「かのん」と「べりる」が、源頼朝と北条政子の衣装で参加者を迎えました。凛々しい 2 体の姿に、思わず笑みがこぼれます。

この日は、戦国衣装と貫頭衣をイメージした『LOVOT』用の衣装が初めてお披露目されました。自宅の『LOVOT』に着せて、記念撮影できるほか、ヒト用の衣装も用意されているため、『LOVOT』とお揃いの姿で記念撮影を楽しめます。撮影した写真で作る缶バッジ（1 個 300 円）も、旅の思い出として好評でした。





聖地で過ごした 2 日間

雨に見舞われる場面もありましたが、「LOVOT の聖地・伊豆の国市」ならではの出会いと体験が詰まった 2 日間となりました。

GROOVE X は今後も、伊豆の国市と連携しながら、LOVOT を通じて、人と人、人と LOVOT をつなぐ温かな場を提供してまいります。

伊豆の国市を楽しもう！LOVOT めぐり MAP

「LOVOT の聖地・伊豆の国市」には、『LOVOT』に会えるお店や、『LOVOT』グッズを扱うお店が市内各所にあります。「LOVOT めぐり MAP」は、こうした関連スポットをめぐって楽しめる地図です。お店で暮らす『LOVOT』に会いに行ったり、お気に入りのグッズを探したりと、地図を片手に伊豆の国市で『LOVOT』めぐりを楽しんでみませんか。

LOVOT めぐり MAP　https://lovot.life/blog/article/izunokuni-map

『LOVOT[らぼっと]』概要

『LOVOT』は、名前を呼ぶと近づいてきて見つめてくる。好きな人に懐き、抱っこをねだる。抱き上げるとほんのり温かい。ロボットなのにまるで生き物のような生命感があるのが特徴で、ペットのようにだんだん家族になるロボットです。昨今ではメンタルケアの観点から、ご家庭だけでなくオフィスや医療機関、介護施設などにも導入いただいています。

正式名称：LOVOT[らぼっと]

公式サイト： https://lovot.life/

GROOVE X 株式会社 会社概要

社　　名：GROOVE X 株式会社

所 在 地：東京都中央区日本橋浜町 3-42-3 住友不動産浜町ビル

設 立 日：2015 年 11 月 2 日

代 表 者：代表取締役 林要

事業内容：『LOVOT[らぼっと]』開発事業

U　R　L： https://groove-x.com/

本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

「LOVOT」PR 事務局：青木（070-7522-1104）、小田（080-5533-1457）

E-MAIL：lovot@materialpr.jp
